

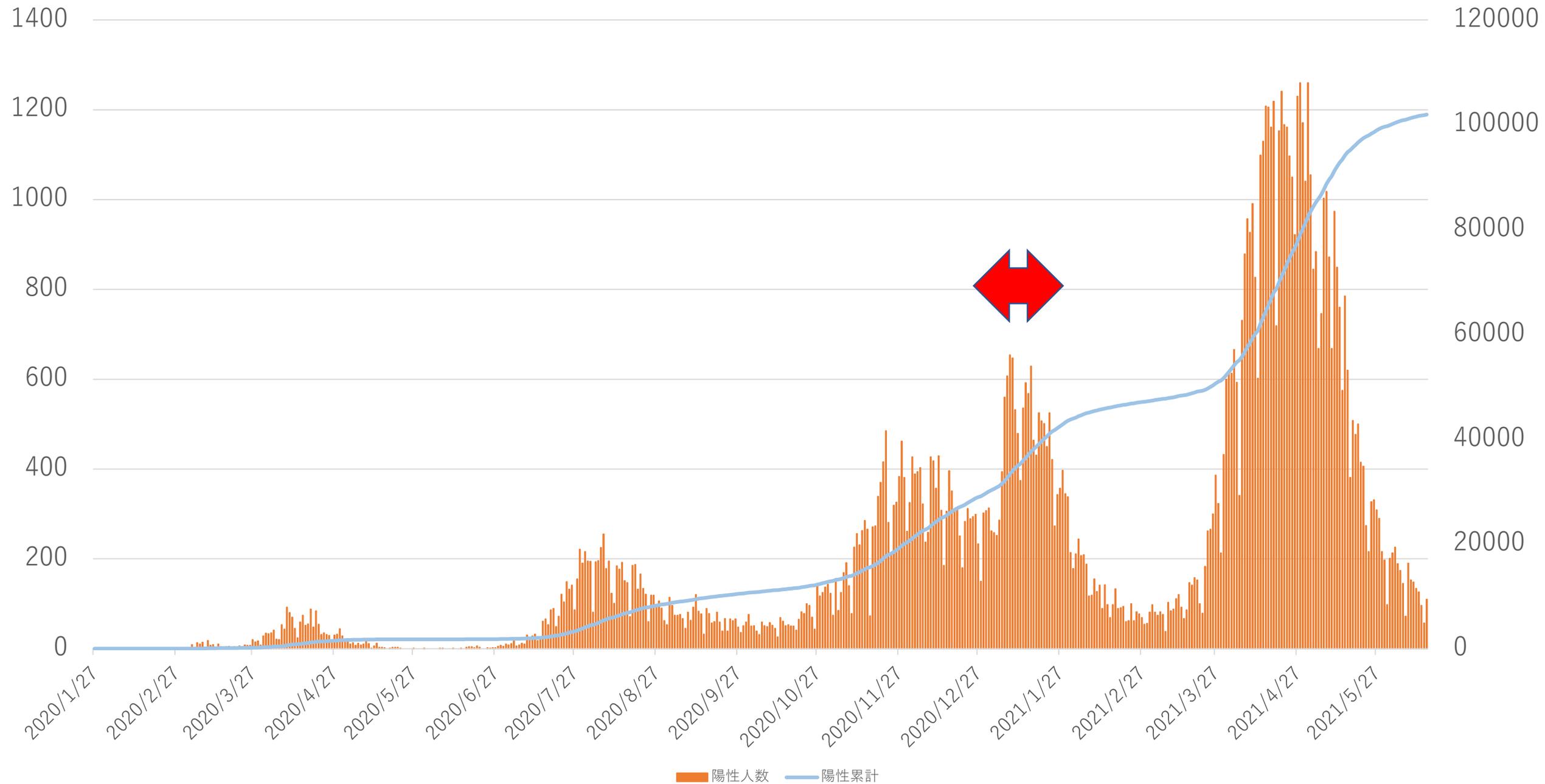
変化と混乱下での適応力 -大阪コロナ重症センターでの経験から-

大阪大学医学部附属病院
小児医療センター
看護師 川崎 哲

コロナ重症センター派遣の経緯

- 大阪では2020年11月頃より新規感染者が連日増加
- 12月3日には重症病床使用率が70%↑（大阪モデル赤信号）
- コロナ重症センターの運営は医療従事者の応援などによる体制となっており、当院にも応援要請があった

大阪府 新型コロナウイルス感染症者数



コロナ重症センター志願の動機

1. 社会的使命感
2. スキルアップ
3. 役割モデル

コロナ重症センター出向までの準備

- 職場での準備
 - 役割調整
 - 勤務調整
- プライベートでの準備
 - 家族の理解
 - 周囲の理解

派遣中の生活

- 宿泊

 - 大阪府借り入れのホテル



- 通勤

 - 送迎バスあり（自身は自転車）



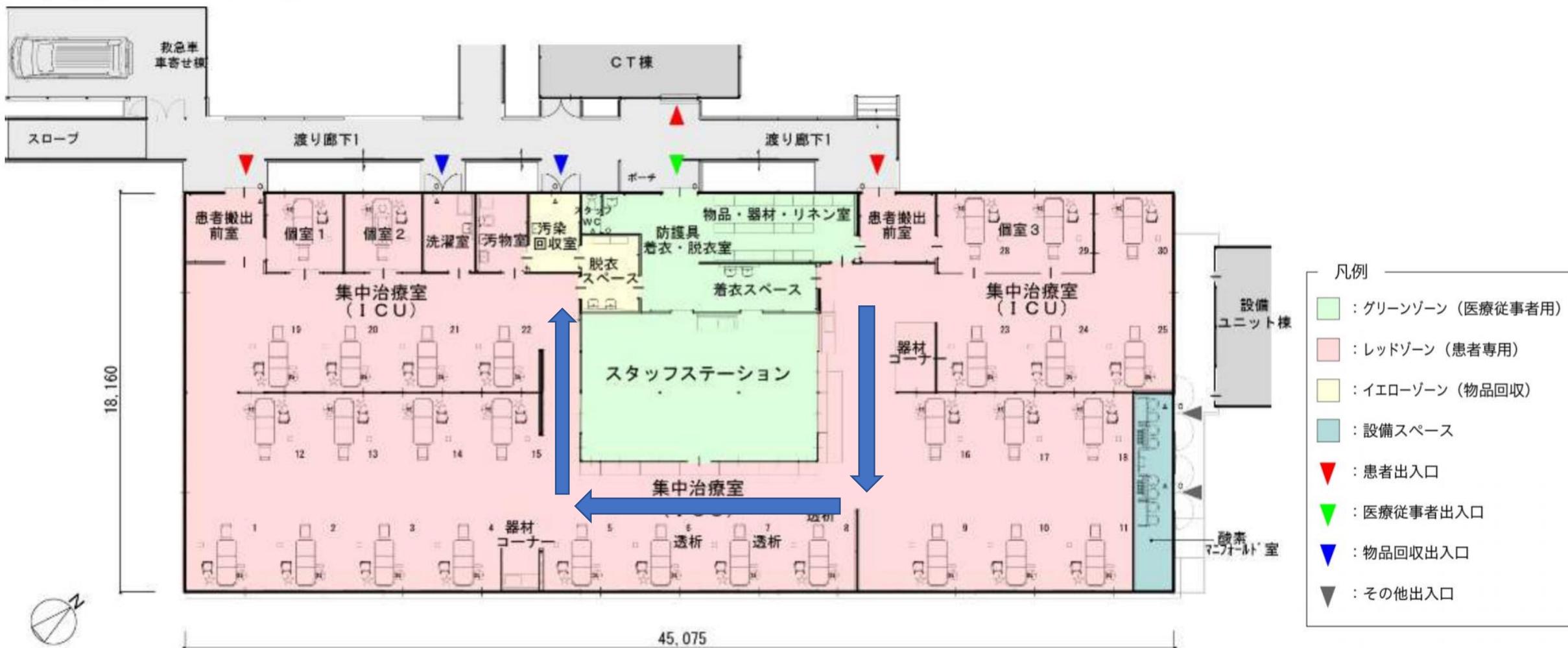
- 食事

 - 基本は部屋で、買い溜めやコンビニ



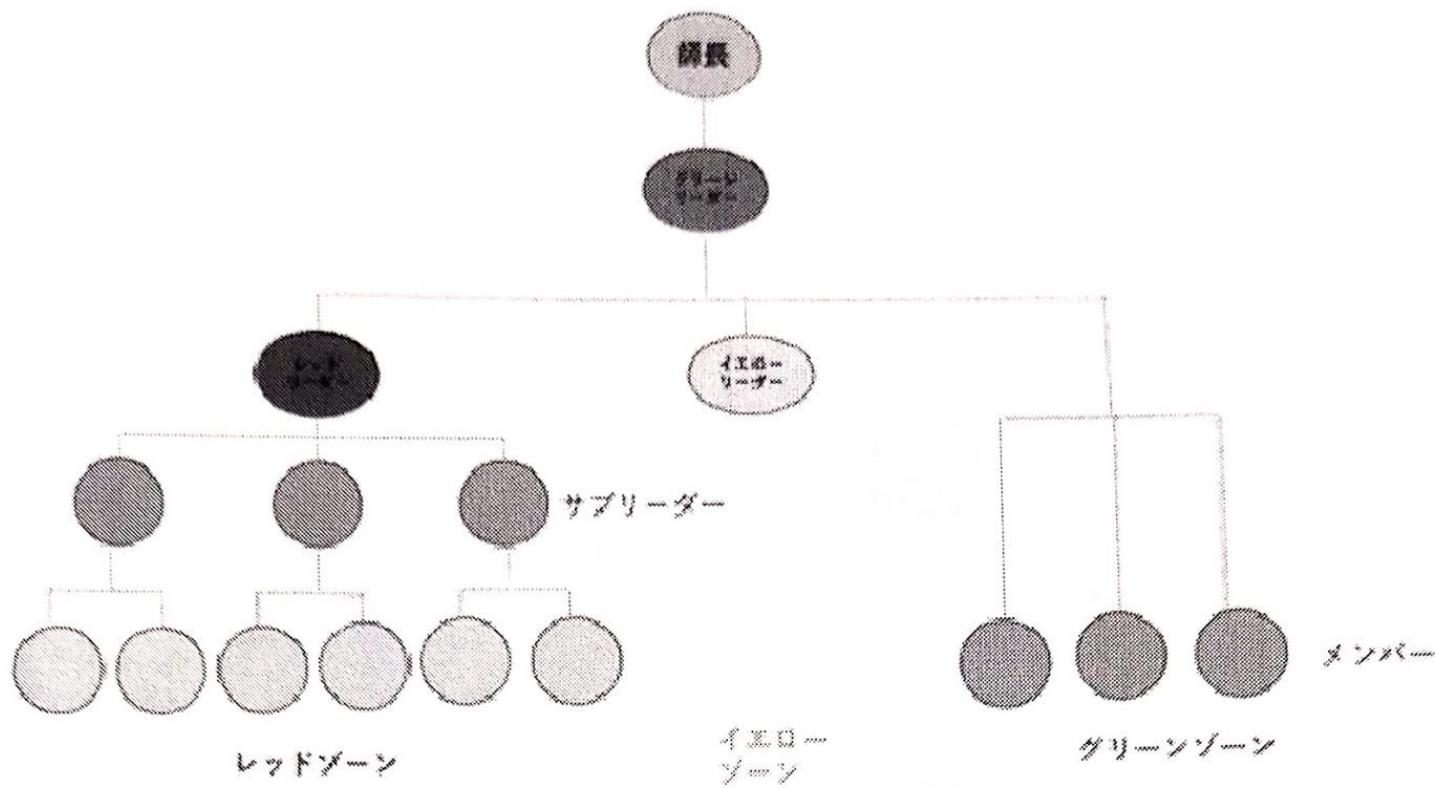
コロナ重症センターのレイアウト

■ 集中治療ユニット平面図



コロナ重症センターでの勤務構成

【指示系統】



コロナ重症センターでの混乱①

1. 不慣れな環境
 - 不慣れなシステム
 - 不慣れな患者
2. 有るようで無いケア基準やエビデンス
 - ケア基準
 - コロナへのエビデンス
3. コミュニケーションエラー
 - インカム
 - 相互理解



コロナ重症センターでの混乱②

1. システムの違い
 - 電子カルテ
 - 施設の使い方 デバイス
 - ゾーニング PPE
2. 小児と成人の違い
 - バイタルサイン
 - ケア基準 ケア方法
3. 人間関係
 - 一期一会は難しい

コロナ重症センターでの適応

1. コミュニケーション

- 相互理解
- 風土の醸成

2. 情報収集

- 五感をフル活用
- 意識下から無意識化へ

3. PDCAと小さなトライ & エラー

- 適応によるケアの質の向上
- 適応による成長



周囲の適応

- 教育メンバーの成長
- 家族の成長

まとめ

- コロナ重症センターでの経験は様々な混乱を生じたが、スタッフや家族のサポート、センタースタッフとの協働、自己研鑽により適応できた
- コロナ重症センターへの派遣は自身や周囲にも影響を及ぼしたが、それぞれの適応は飛躍的な成長をもたらした